92 歳 ഗ 警鐘 80 年 前に通 じる排 斥 厶 I ĸ



西田進一郎 られた約12万人の日系人が不当 敵性外国 第二次世界大戦 人 のレッテルを貼 中 米国では

られ だ」というプロパガンダが流布され、 戦した41年12月。 1933年、 コ生まれ。 「バイバイ」と書かれた看板が掲げられたという。 生活が変わ た。 サ 日 ム・ミハラさん 西部カリフォルニア州サンフランシス り始めたのは、 本人移民の両親を持つ日系米国人だ。 敵国からの移民や日系人は に家を追われ、 真珠湾攻撃で日米が開 92 もその一人だ。 強制収容所に送 家の近くには 「危険

今度は何も知らされないまま列車に乗せられた。 収容所行きのバスに集合せよ」。バスの行き先はか 紙から始まった。「1週間以内に所有物を手放して つての競馬場だ。馬小屋での生活が3カ月たった頃、 降ろされたのは、元の家から1000㌔以上離れ 強制収容は42年春、家の壁や外灯柱などへの張り

た内陸

刺

線 0

に囲まれ、 ワイオミング州

監視塔があちこちに建つ広大な

ハートマウンテンだった。

土

地

4

5

棟

0

簡

素なバ

ラックが

建ち並んで

ていなかった。ひどい環境で落ち込んだ」と語る。 まるほどの狭さ。 その冬、現地は氷点下30度まで下がった。 部 屋は 1人1台 「壁に 1の簡 断熱材もなく、 易ベッドを4台置 水道も通 温 らと埋 暖

けて農地を開墾し、生活は何とか上向いた。 事はジャガイモやミルクなど。農業移民らが んらにとって「 カリフォルニアの服しか持っていなかったミハ 医療環境は悪かった。 最初の冬は悲惨だった」。 父は目の持病について適 当初 . 1 年 ラさ 0 切

診断され、 な処置を受けることができずに失明。 終戦後、ミハラさんはボーイング社でロケット 「骨と皮だけ」の姿で死亡したという。 祖父はがんと

が直接体験談を聞いたのは9月30日だった。 米国人が知らない「負の歴史」を伝えている。 ンジニアとして活躍した。引退後は各地で講 演し、

と繰り返してはならない」。 ている移民や外国人に対する排斥ムードだ。「二度 と語った。念頭にあるのはトランプ政権下で高まっ たとし「再び起こり得るのではないかと恐れている」 イスラム教徒に対して同じようなことが起こりかけ るハラさんの危機感がひしひしと伝わった。 ミハラさんは講演の終盤、 今も全米を飛び回 米同時多発テロ の 後